

ニュージーランド南島 地震災害に対する 国際消防救助隊 (IRT-JF)の活動概要

参事官

1 地震発生～初動対応

平成23年2月22日（火）8時51分頃（現地時間12時51分頃）ニュージーランド南島のクライストチャーチを震源地とするマグニチュード6.3（我が国気象庁発表）の大規模な地震が発生しました。

地震発生当初から外務省及び独立行政法人国際協力機構（JICA）と消防庁との間で連絡、協議等を進めていましたが、現地での救援活動に係る調査を目的とした緊急調査チーム3名（外務省、JICA及び東京消防庁各1名）が援助要請に先駆け、先遣隊として同日19時に成田空港を出発しました。

この間ニュージーランド政府から我が国に対して正式に援助要請があり、これを受け同日21時50分に国際消防救助隊（International Rescue Team of Japanese Fire Service）の派遣が決定されました。

2 成田空港～現地へ

消防庁の職員1名及び登録消防本部の隊員15名（東京消防庁5名、千葉市消防局3名、京都市消防局3名、相模原市消防局2名及び高松市消防局2名）計16名のIRT隊員が、翌23日（木）10時20分に成田空港に集結、IRT結団式を行いました。その後、国際緊急援助隊（JDR：Japan Disaster Relief Team）救助チームを構成する他省庁・機関（外務省、JICA、警察庁、海上保安庁ほか）からの要員47名と合流してJDR結団式を実施後、14時03分発の政府専用機にて、現地へ向けて出発しました。

3 現地での活動

国際消防救助隊をはじめとするJDR救助チームの第1陣は2月24日（金）未明にクライストチャーチ空港に到着後、先発の緊急調査チームと合流し、現地時間の7時過ぎに現地活動拠点を置くラティミアスクエアに到着しました。

被災地入りした同チームはニュージーランド政府の現地災害対策本部において今後の活動に関する協議を行い、その後、小隊長以上は邦人被災者が多数あるとされるCTVビル倒壊現場を確認、隊員は活動本部（B.O.）の設営を行うなど、救助活動開始の準備を行いました。

発災後約46時間経過した24日11時から活動を開始し、27日20時までの約81時間を、24時間体制（昼間は2交替、夜間は4交替体制）で活動しました。第1陣は、3月1日までの活動において23体の遺体を収容し、翌2日には第2陣に引き継ぎ、政府専用機にて3日に帰国しました。

4 第2陣の活動

消防庁職員1名、東京消防庁5名の計6名のIRT隊員を含む第2陣先発隊21名は2月28日18時30分に成田空港を出発し、翌3月1日B.O.に到着し、CTVビルの現場確認、第1陣からの業務引継を受け、翌2日早朝から救助活動を開始しました。後発隊のJDR隊員11名（新潟市消防局2名のIRT隊員を含む。）も2日13時30分に先発隊に合流し活動を行いました。



JDR救助チームの第1陣による救助の様子



重機を使用した救助の様子

3日午後には、ニュージーランド政府が被災地における活動を捜索救助から遺体発見・収容に移行を発表しましたが、ニュージーランド当局の同意の下でC T Vビル現場での捜索活動を最後まで継続し、3体の遺体を収容しました。

5日16時には同現場における捜索活動及び瓦礫排除活動を全て終了、撤収しました。6日には黙祷式を実施、その後近隣街区の被災状況確認等を行い全ての活動を終了、7日に第3陣に引き継ぎ翌8日に帰国しました。

5 第3陣の活動～最終引揚

消防庁職員1名、登録隊員7名（東京消防庁5名、福岡市消防局2名）計8名のI R T隊員を含む総勢30名のJ D R隊員は、3月6日18時30分に成田空港を出発、翌7日18時04分（現地時間）にB o Oに到着、第2陣からの業務引継を受けました。

C T Vビルでの捜索活動は終了していたもののニュージーランド側から高い技術を持った日本隊による支援継続が期待されたことから、翌8日から10日までクライストチャーチ市内外8か所の現場において解体前の被災建物内の人命検索、貴重品の捜索・搬出を実施しました。

最終日の11日にはC T Vビルとその付近の最終捜索、B o Oの撤収作業等を行い翌12日に帰国の途につき、国際消防救助隊を含むJ D R救助チームは第1陣から第3陣までの総勢128名による活動を終了することとなりました。



黙祷式の様子（3月6日）

6 おわりに

ニュージーランドを含む先進国からの我が国への救助隊の派遣要請は今回が初めてのものでした。

また、他に特筆すべきことは、援助要請に先駆け、緊急調査チームとして先遣隊を派遣したこと、邦人行方不明者が多数発生したこともありますが、政府専用機による第1陣の早期の投入により早期に現地到着し活動が開始できたこと、第2、3陣の派遣、I N S A R A G（国際捜索救助諮問グループ）ヘビー級認定後初の救助チームの派遣といったことが挙げられます。

現地では余震や雨、倒壊後の火災の影響もあり困難な窮状でしたが、国際消防救助隊をはじめとする我が国J D R救助チームは、その持てる技術、強い使命感により捜索活動を展開しました。

残念ながら全活動を通じて生存者の発見救出には至りませんでしたが、その活動ぶりには現地の政府機関、関係機関や邦人被災者家族等から高い評価、感謝の意が寄せられました。

なお、第3陣が帰国する直前に東日本大震災が発生し、現地ではいまだに行方不明者があるなか復興が始まろうとしています。

ニュージーランド、日本両国において犠牲になられた方々の冥福を心からお祈りするとともに、今回の活動が今後の被災者支援の礎の一つとなれば幸いです。